

## 第3学年 道徳学習指導案

日 時 平成20年10月17日(木) 5校時  
児 童 男8名 女18名 計26名  
指導者 根 澤 倫 徳

1 主題名 赤ちゃんが生まれるまで 3-(2) 生命尊重

2 資料名 「おばちゃん、がんばれ」(みんなのどうとく3年 学研)

3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の道徳の内容3「主として自然や崇高なもののかかわりに関すること」の項目(2)は、「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること」である。低学年での「生きることを喜び、生命を大切にすることをもつ。」を受けての指導であり、高学年「生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重すること」につながる。

生命の尊重は、全ての生命体に対する畏敬の念といとおしみの心を基底としている。人間にとってかけがえのない生命の尊さを知り、日常生活においても進んで自他の安全を図り、相互の健康の保持に努めようとする態度を養うことが必要である。

(2) 児童について

児童はこれまで、理科の学習や総合的な学習の時間で植物の栽培や昆虫の飼育、観察を通し、昆虫の生態について興味をもったり、進んで花の世話や畑の手入れをしたりする姿が見られた。また、4～7月まで出産を控えた担任と過ごした中で、おなかの中の赤ちゃんの様子について話を聞いたり、赤ちゃん誕生の絵本や紙芝居の読み聞かせを体験したりしながら、赤ちゃんの誕生を身近に感じ、「自然界における生命の誕生」についての関心を高めてきた。その中で、「自分の命を大切にしなければならない。」という意識が芽生えてきている。

その反面、行動的であるため怪我が多かったり、児童や友だちの気持ちを考えない言動も見られたりすることがある。

本指導で、「人としての生き方」「生命の尊さ」や「生命を守ることが、どんなにかけがえのないものであり、最優先して考えていかなければならないもの」であるのか、改めて考えるきっかけとしていきたい。

(3) 資料について

本資料は、主人公である「よっちゃん」が、親戚のたかちゃんに兄弟ができることを知り、自分にはまだ兄弟がいないという悔しさと、兄弟ができるたかちゃんに対するうらやましさを感じる場面から始まる。そんな折、おばちゃんの大きくなったおなかに触れてみることで、生命の誕生を身近に感じ、さらにお母さんの話や育児日記を見ることにより、自分の生命の尊さに気づき、おばちゃんの赤ちゃん(他の生命)に対しても、同様に尊いのであると気づく主人公の気持ちが表れた資料である。主人公の気持ちの変化場面に焦点をあて、自他の生命の尊さをいっそう深く考えさせたい。

#### 4 本時の指導

##### (1) 研究主題との関わり

##### ①本時の位置づけ（道徳的実践活動の活動計画より）

	道徳的実践活動の ねらい	段階1 道徳的価値への気付き	段階2 活動・体験	段階3 道徳性の高まり
10月	日常生活において、生命の尊重は全ての生命体に対する畏敬の念といとおしみの心を基底としていることを理解させ、自分の生命を大切にすると同じように他の生命も大切にしようとする態度を育てる。	<b>【理科の時間】</b> <b>「植物を育てよう」</b> <b>「チョウを育てよう」</b> <b>「植物のからだをしらべよう」</b> <b>「こん虫をしらべよう」</b> <b>「花と実をしらべよう」</b>  自然の生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。  <b>【国語の時間】</b> <b>「ちいちゃんのかげおくり」</b> ちいちゃんが亡くなる悲しみから、生命の大切さに気付かせる。	<b>【学級活動】</b> <b>「いのちのつながり」</b> 生命の誕生について知り、命の尊さに気付くことができる。 家族の一員としての自分の役割を考えることができる。  命は自分一人のものではなく、長い間「命のバトン」を引き継いだものであり、たくさんの人々に支えられていることに気付くことができる。	<b>【道徳の時間】</b> 3 - (2)生命尊重 <b>「おばちゃん、がんばれ」</b> 自分の生命の尊さに気づき、ほかの人の生命も同じように大切にしようとする心情を育てる。

##### ②指導の手立て

本時は、第3段階「道徳性の高まり」にあたる。

1学期には、道徳の時間に主題名「目の見えない犬」（生命尊重）の学習をし「命はかけがえのないもの」であるという心情を養うことができた。本時は、1学期に学習した内容よりさらに一歩高める段階として、「自他の人間の生命を尊重する」まで心情を育てていきたい。

「道徳実践プログラム」の第1段階として、1学期からの理科や総合的な学習での植物の栽培やこん虫の飼育と観察、国語科「ちいちゃんのかげおくり」の学習を通して動植物の命も人間の命も同じく尊いということを感じることで「気付き」とする。それを受けて第2段階では、学級活動での性指導「いのちのつながり」を位置づけた。この指導では、総合的な学習の時間における老人施設「宝寿荘訪問」とも関連づけ、「自分の命は祖父母の代より続いている尊いものであること」を考えさせたり、自分の誕生について家族へのインタビュー活動を通し「自分の命の尊さ」を感じさせたりすること、さらに「周囲の友だちも同じように尊い命をもっており、たくさんの人々にささえられている命を大切にしていけることが重要である。」と認識させたりするための「体験・活動」である。

そして、本時は「体験・活動」で得られた「たくさんの人々に支えられている命」であることをさらに深化・補充する「道徳性の高まり」として位置付け、「自他の命を大切にすると同じように尊い命を育てる。」ことにつなげていきたい。

本時の導入では、学級指導での体験・経験を生かし「自分の命も友だちの命もつながっていて尊いものであり、たくさんの人々に支えられている。」ということを感じさせ、価値への意識付けを図っていきたい。【事前の活動の想起】

展開前半では、資料を読み取り、主人公の思いに共感させながらも、主人公の意識の変化場面に焦点をあてていき、赤ちゃんが誕生するまでの大変さに思いをもたせたい。

展開後半では、自分が生まれたことについて交流させ、誕生の大変さと生命の尊さを

より身近に感じさせ、自他の生命の尊さに気付くことができるようにつなげていく。

終末では、産後の担任からのビデオメッセージを見ることによって、赤ちゃんの誕生がいかに大変なものであるか、また、生まれたことがどんなに嬉しいことなのかについて知るとともに、自分の生命と同じように、他者の生命も大切にしようとする心情を高め、前担任へ手紙を書く。【ビデオメッセージ】【手紙】

(2) ねらい

赤ちゃんが誕生することのすばらしさに気付き、自分やほかの人の生命も同じように大切にしようとする心情を育てる。

(3) 展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 5分	1 学級活動での体験を想起する。 ○「いのちのつながり」の勉強でどんなことを感じたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>命は代々つながっていた。</li> <li>命は自分一人のものでなく、たくさんの人々に支えられていることに気付いた。</li> <li>命を守ることは大事だと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級活動で学んだことを、想起させ、感想を話し合いながら、価値への方向づけを図る。</li> <li>【事前の活動の想起】</li> </ul>
展開 20分	2 資料「おばちゃん、がんばれ」を読み、「わたし」の気持ちを中心に話し合う。  (1)おばちゃんに赤ちゃんができると聞いたとき、「わたし」はどんな気持ちになったか。  (2)おばちゃんのおなかをそっとさわってみたとき、「わたし」がびっくりしたのはなぜか。  (3)お母さんの話を聞いたり、育児日記を読んだりして「わたし」はどんなことを考えたか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>悔しい。</li> <li>うらやましい。</li> <li>たかちゃんは、ずるい。</li> <li>わたしだけ一人っ子じゃつまらない。</li> <li>とつぜんおなかがうごいたから。</li> <li>おなかが、かたかったから。</li> <li>おなかに赤ちゃんをまもる水があったから。</li> <li>おなかの赤ちゃんが生きていたから。</li> <li>人が生まれるというのは、大変なことなんだ。</li> <li>命って大切なんだ。</li> <li>おばちゃん、おめでとう。</li> <li>からだに気をつけて、元気な赤ちゃんを生んでね。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他人の生命はもちろん、自分の生命の大切さにも気づいていない「わたし」の気持ちを気付かせたい。</li> <li>おばちゃんのおなかにいる、生命の神秘さに共感させていきたい。</li> <li>自分の誕生時のことを知り、人の生命の大切さに気づいた「わたし」の気持ちに深く共感させたい。</li> </ul>

10分	<p>3 自分が生まれるときの、周りの人の苦労や気持ちについて話し合う。</p> <p>○自分が生まれるとき、周りの人が大変な思いをした話を聞いたことがあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・逆子だった。</li> <li>・早産だった。</li> <li>・生まれてくるのに、すごく時間がかかった。</li> <li>・小さく生まれてきて、保育器に入ったことがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に、自分が生まれるときのことをアンケート等で実態把握をしておく。</li> </ul>
終末10分	<p>4 前担任からのビデオレターを見て、手紙を書く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・赤ちゃんの誕生がいかに大変なものであるか、また、生まれたことがどんなに嬉しいことなのかについて知るとともに、自分の生命と同じように、他者の生命も大切にしようとする心情を高める。</li> </ul> <p>【ビデオメッセージ】</p> <p>【手紙】</p>

(4) 板書計画

お母さんの育児日記を読んでいる絵

- ・自分も死にそうになったんだ
- ・赤ちゃんが生まれるって、たいへん。
- 長い入院 点てき
- ・おばちゃん、おめでとう。
- ・からだに気をつけて、元気な赤ちゃんを生んでね。

おばちゃんのお腹を触っている絵

- ・うごいた。
- ・あったかい。
- ・わたしもおなかのなかにいた時はこんな感じだったのかな

おばちゃんのおなかをさわってみて。

受話器を持った私の絵

- ・くやしい。
- ・うらやましい。
- ・わたしだけ一人っ子じゃつまらない。

おばちゃんに赤ちゃんができる。

おばちゃん、がんばれ

おかあさんの話を聞く 育児日記を読んだ「わたし」

5 資料分析 資料名「おばちゃん、がんばれ」(みんなのどうとく3年 学研)

